

「まちの縁側コミュニティ～地域をつなぐ“縁”～」

顔見知りの多い地域

私が幼い頃、出かける時も玄関の鍵をかけないことや、近所の子供の名前を近所の人が知っていることは当たり前でした。遊んでいると近所のおばあちゃんにおやつをくれたことや、母と駅前の市場へ買い物に行けば、八百屋のおじさんがいつも決まってバナナを1本おまけしてくれたことを思い出します。また、家の中においても、親戚からもらった野菜が余ると母が隣の家におすそ分けしに行ったり、回覧板を渡すついでにおしゃべりをして帰ったりといったことが日常生活の一部としてありました。

このように、地域の子供たちを地域に住む人みんなで面倒を見るといった気持ちや、近所の人とのちょっとしたコミュニケーションを心がける気持ちのように、昔はいつもとなり近所のことを気にかける雰囲気がありました。自分の家の周りに住んでいる人の顔や名前を知っていることが当たり前だったのです。

近所付き合いの希薄化

近年、となり近所との関係の希薄がどこの地域でも問題視されています。私の住む地域においても同様で、近所の人との会話は減り、顔や名前がわかる人は少なくなっていました。近くの公園で子供が遊んでいてもこの家の子か全くわかりません。以前は、駅に向かう途中で市場の人と挨拶を交わしていたのですが、今ではその機会もなくなっていました。この市場はスーパーやディスカウントストアが新しく建設された上に、駅前に新しい道路が整備された影響で、買い物客が少なくなった上、市場を歩く人の数自体も減っていました。

近所付き合いが濃厚な地域

熊本県天草市河浦町崎津にある漁村集落は、現在も近所同士の関係が密接な地域です。近所の家を積極的に訪問しては世間話をしたり、家に上がってお茶を飲んだりという風景をごく普通に見ることができます。また、玄関が開放されている家が多く、数人の女性が魚を干物にしている様子を通りから見るすることができます。集落の構造の特徴としては、隣の家との距離が近いということと、庭や門がない家が多いということが挙げられます。

この集落の近所付き合いが濃厚である理由は、漁業という生業を営むことによって、集落内のコミュニティが形成されてきたためと考えられます。しかしそれだけでなく、家と家との距離が非常に近いということや、家の中の様子がわかりやすいという構造も、コミュニケーションを取りやすい雰囲気を作り出している重要な要因であると考えました。

縁側の役割

地域の結びつきの強さは、日頃の挨拶や世間話など、人と顔を合わせる機会の積み重ねに深く関係していると言えます。そこで、地域の人同士をつなげる役目として、「縁側」の存在に着目しました。

縁側とは、日本の和風家屋に独特の構造で、家の建物の縁（へり）部分に張り出して設けられた板敷き状の通路のことを言います。縁側は家の中と外をつなぐ機能を持っており、屋内から外へ出たり、外から屋内に上がったり、腰掛けたりすることが気軽にできます。この縁側の持つ“気軽さ”が地域のコミュニティ形成に役立つと考えました。

本来縁側は個人のものですが、ここでは縁側の部分を地域の共有スペースとすることを提案します。もちろん、縁側を所有する家庭の協力が必須であり、利用する人のモラルも重要です。以下に、地域の共有スペースとして縁側を見たときの活用事例を挙げます。

縁側の活用方法

憩いの場としての縁側

暑い日に外に出ていると、少し座って休憩したくなりませんか？そのような時、日影のある縁側で涼むことができます。縁側であれば靴を脱ぐ必要もないため、気軽に立ち寄ることができます。屋内でくつろぎながら、外を眺めることができるのも縁側の特徴です。子供を外で遊ばせる親の休憩スペースにすると、子供を見守りながらおしゃべりやお茶を楽しむことが可能です。

また、道で偶然知り合いに出会ったとき、近所の主婦が集まったとき、井戸端会議の場所として縁側を利用してはどうでしょう。散歩の途中や買い物帰りに縁側に座って話をしていると、それを見つけて他の人が集まってきたり、そこで知り合いになったりと輪も広がります。そのうち、行きつけの店のように常連も出てくるかもしれません。また、一人暮らしの高齢者にとっては、話し相手が訪ねてきてくれるのが楽しみの一つになると思います。

多くの人が集う場としての縁側

縁側は、公共の施設に設置しても良いでしょう。公民館では訪れた人が、病院では患者同士が世間話をする場、図書館では本を読むための場として利用できます。天気の良い日は昼寝をしても良いかもしれません。

飲食店でも縁側はお酒や軽食を楽しむ場所となります。地域の飲食店で協力して、縁側で食事をしたときの特典、縁側で頼める限定メニューなどがあれば、食べ歩きをする客の増加も見込めます。また、商店街のお店の縁側を、端から端まで繋げてみるのもおもしろいかもしれません。縁側を歩いてお店を見て回ったり、腰掛けて休憩したりしながら買い物を楽しむことができます。

情報発信の場としての縁側

地域を訪れた観光客、もしくは地域外の人にも縁側は便利です。道に迷ったとき、食事の場所を探しているときなど、縁側に座っている人を見つけて訪ねることができます。そこで、地元の人しか知らない穴場であったり、地域の魅力を教えてもらえたりする良い機会にもなります。縁側に観光マップやフリーペーパーを置いたり、写真や絵画を展示したりすることもできます。いろいろな個性のある縁側が増えれば、「縁側めぐり」を試してみても楽しいでしょう。

地域の風景としての縁側

縁側を求めてくる人が増えれば、縁側を所有する家庭の意識も変わります。庭に花を植えたり、木を剪定したりと縁側からの眺めを楽しんでもらおうとするようになるかもしれません。夏は風鈴を垂らしてうちわを置いたり、冬にはこたつを出したりと、縁側の表情も季節毎に変えると、またその場所に来たいと思う理由の一つになります。

このように、今よりも縁側のある家が増え、その縁側で過ごしている人や道を歩く人との会話の様子を見ることができたら、その風景は地域の顔となるでしょう。

まとめ

以上のように、昔と今では「同じ地域で暮らしている」という人々の意識に違いがあると言えます。他人への関心が薄れ、近所付き合いが少なくなった現代において、人々の意識を高めるためには、互いに顔を合わせる機会を持つことが必要と考えます。縁側は屋内と屋外をつなぐ機能だけでなく、地域の者同士をつなぐ重要な場所となりうると言えます。まずは、縁側の持つ“気軽さ”を利用して、他人と気軽にコミュニケーションをとってみることから近所付き合いを初めてみてはどうでしょうか。